

褥瘡予防マットの開発

山本 巖, 藤本 哲也, 平井 利博, 清水 義雄

信州大学 繊維学部

1. 緒言

褥瘡は圧力（加圧力×加圧時間）が原因で発生する組織の虚血性壊死の事である。

従って、予防には適切な除圧（体圧分散と圧迫持続時間の短縮）が最優先される。褥瘡の発生には、圧力以外にも剪断力、低栄養、湿潤、基礎疾患などの要因が複雑に絡み合っている。本年度は、昨年度に引き続きポリアクリル酸ヒドロゲルパックを素材にしてその形状、厚さ等と除圧効果の関係、及び栄養状態の目安として血中総タンパク、血清アルブミン値と褥瘡の発生に関する基礎的研究を行った。

われてきたが、図1に総タンパク量と発症の関係を示す。総タンパク 6.9g/dl、血清アルブミン値（図略）3.0～3.4g/dl 以下が発症の境界値であると言える。なお、血液の採取は大学病院に入院中の患者から了解を得て行った。

また、セルサイズ並びにセル圧と除圧の関係（下図）では、サイズ8～ cm、厚さ1.5～2cm が最適であった。更に、ポリアクリル酸濃度は1～1.5%が最適であった。

今後、このような知見を基に実用化について検討したい。

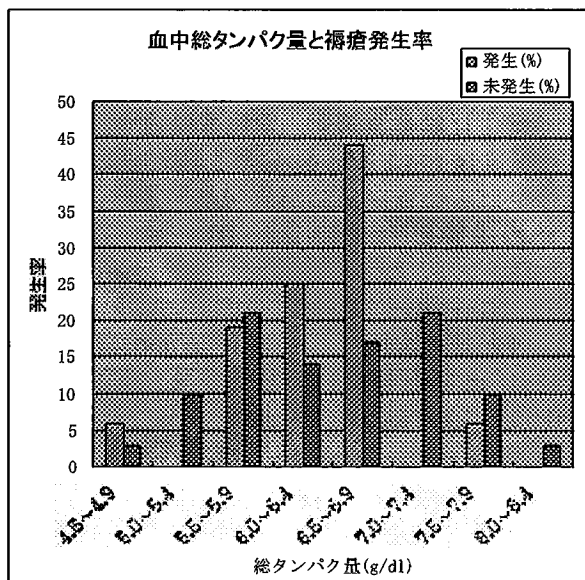


図1

2. 実験方法, 結果と考察

低栄養者に褥瘡が出来やすいとこれまで言

